

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第18週)

(令和8年4月27日～令和8年5月3日)

令和8年5月8日

定点報告(上段: 定点当たり/下段: 報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2026年					2025年 合計	2024年 合計
		15週	16週	17週	18週	合計		
定点報告	インフルエンザ	0.67 2	1.33 4	- 0	0.33 1	- 581	- 2,558	- 1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	1.33 4	1.33 4	2.67 8	2.33 7	- 124	- 1,139	- 3,622
	RSウイルス感染症	- 0	1.00 2	1.00 2	- 0	- 25	- 156	- 309
	咽頭結膜熱	- 0	- 0	0.50 1	0.50 1	- 4	- 78	- 337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50 5	2.50 5	1.50 3	1.50 3	- 69	- 243	- 657
	感染性胃腸炎	- 0	1.00 2	1.00 2	1.00 2	- 106	- 430	- 610
	水痘	- 0	- 0	- 0	- 0	- 4	- 10	- 6
	手足口病	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 15	- 952
	伝染性紅斑	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 141	- 0
	突発性発しん	0.50 1	0.50 1	- 0	- 0	- 12	- 59	- 182
	ヘルパンギーナ	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 4	- 19
	流行性耳下腺炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 1	- 10	- 13
	急性出血性結膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	流行性角結膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 2	- 9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	- 0	- 0	- 0	- 0	- 2	- 16	- 1
	クラミジア肺炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	細菌性髄膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	マイコプラズマ肺炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 10	- 42	- 16
	無菌性髄膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	インフルエンザ入院	- 0	- 0	- 0	- 0	- 7	- 39	- 19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	- 0	1.00 1	- 0	- 0	- 21	- 56	- 120
	急性呼吸器感染症(ARI)	39.33 118	54.00 162	53.33 160	55.00 165	- 3,440	- 8,849	- -

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

インフルエンザ	相双地域は前週と比較して増加しましたが、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。本県における第18週の定点当たり報告数は0.67と、12週連続で減少しました。
新型コロナウイルス感染症	相双地域は前週と比較して減少しましたが、県(県内総数)は前週と比較して横ばいです。他疾患と同様、基本的な感染対策が重要です。
結核	本県で3例届出がありました。昨年と同様、高齢者や外国出生者が多くを占めている状況です。外国人労働者を多く雇用する事業所や高齢施設は、既存の感染対策に加え、結核対策としての定期健康診断を実施し、早期発見に努めましょう。
つつが虫病	本県で1例届出がありました。つつが虫病は、病原微生物を保有するツツガムシ(ダニの一種)に刺された後、1～2週間後に発症します。人から人へは感染しません。主な症状として発熱、発疹、刺し口(刺された部位がカサブタに変化)、頭痛、倦怠感、肝機能障害などがあります。治療が遅れると重症化や、最悪の場合死に至ることもあるため、早期診断・早期治療が重要です。山林や草むら、農耕地に入る機会が多くなる春季(3～6月)と秋季(9～11月)は注意が必要です。野外作業時は長袖・長ズボン・長靴等を着用して肌の露出を少なくし、作業後は速やかな入浴や着替えを心がけましょう。また気になる症状が現れた場合には、速やかに医療機関(内科、皮膚科など)を受診しましょう。
侵襲性肺炎球菌感染症	本県で1例届出がありました。侵襲性肺炎球菌感染症は、肺炎球菌が髄液や血液に侵入することで生じる感染症です。小児及び高齢者を中心に飛沫感染により感染し、髄膜炎等を伴う肺炎や、敗血症を生じます。予防にはワクチン接種が有効ですので、特に定期接種対象の方は早期のワクチン接種を推奨します。
麻しん	県内での発生は確認されていませんが、国内の感染者数が増加しています。麻しん(はしか)は麻しんウイルスによる感染症で、感染すると咳、鼻水、高熱、発しんが生じます。空気感染が主な感染経路であり、極めて感染力が強く、免疫を持たない人が感染者に接するとほぼ全員が感染します。手指消毒やマスクのみでは予防することができません。最も有効な予防法は、ワクチンの接種です。海外からの輸入事例がほとんどであることから、特に海外へ出張・旅行に行く方は、ワクチン接種(2回)の有無を確認し、感染に十分注意しましょう。

大型連休の間に帰省や旅行などで人の移動が増えたことから感染の拡大に注意が必要です。体調の変化に留意することや、咳エチケット、手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策をお願いします。

(参考・引用) 福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第18号